

稲垣町の小山内さん、尾野さん100歳おめでとう



佐藤副市長(左)、長男の利昭さん夫妻と写真に納まる小山内さん

稲垣町沼館の小山内ちささんが3月23日、めでたく100歳の誕生日を迎えました。

小山内さんは1910(明治43)年生まれで稲垣町出身。夫の利義さんとは死別したものの、子ども6人、孫13人、ひ孫14人、玄孫1人に恵まれ、今は長男の利昭さん夫妻らと7人暮らし。若い頃から和裁が得意で、自分で着る着物はほとんど自分が仕立てるそうです。現在は耳がちょっと不自由なものの、3食はきちんと食べ、天気の良い日は、庭先を散歩する長寿パワーあふれるおばあちゃんです。

この日は佐藤副市長がお祝いに訪れ「これからも地域や家族のために、長生きしてください」と言葉を掛けて顕彰状と花束を手渡しました。



お祝いに駆けつけた親戚や家族らと写真に納まる尾野さん

3月26日、稲垣町福富の尾野ユミさんが長寿100歳の誕生日を迎えました。

尾野さんは1910(明治43)年生まれで五所川原市出身。夫の武雄さんとは早くに死別され、その後は農家を営みながら家計を支えてきました。子どもは5人、孫15人、ひ孫18人、玄孫5人に恵まれた尾野さんは、新聞や絵本を読むのが大好き。食べ物の好き嫌いはほとんどなく、好物はお寿司だそうです。

尾野さん宅を訪れた佐藤副市長は顕彰状と花束を手渡し「健康に気をつけて、家族と楽しく過ごしてください」とお祝いの言葉をかけると「ありがとうございます」と照れくさそうな表情で深々と頭を下げていました。現在は長男の武治さん夫妻らと7人暮らし。

4年ぶりに帰った旧校舎
休み時間の度に走って目指した遊具はなく
ブルサイドは相変わらずさびれたまま
思い出を胸に帰った旧校舎
一生懸命走ったグラウンドは草ボーボーで
皆で育てたヘチマの姿はなく
ビニールハウスの骨組みだけが
さみしくあった
なつかしさを求めて帰った旧校舎
コーヒーマシンの匂いがした職員室には
今はいない
あるのは思い出が一杯一杯つまった校舎と
どこか懐かしい母校の香り



大賞を受賞した工藤さん

工藤夏菜さんが大賞に輝く

第17回北東北子どもの詩大賞に応募した工藤夏菜さん(木造中3年)の詩がこのほど大賞を受賞しました。

工藤さんは、夏休みに出された国語の宿題で詩を選択。何気なく4年ぶりに母校の旧出野里小学校に遊びに行った時、廃校となった校舎を眺めながら小学生の頃を思い出し、その時感じた母校に寄せる気持ちを詩にしました。審査員からは「読む人に訴えかけ、場面が浮かび上がる心うたれる詩である」と高い評価を受け、大賞を受賞した工藤さんは「高校にいつて詩を書く機会があれば、積極的に書きたい」と意気込みを話していました。

稲垣風揚げ大会

第16回稲垣風揚げ大会が3月14日、稲垣町の岩木川河川公園で開催され、県内外から40団体、約300人の愛好者たちが集まって風揚げの腕前を競い合いました。

同大会は稲垣風の会(横山勇一会長)が主催。競技は子供の部、一般Aクラス、Bクラス、Cクラス、Dクラス(団体)、創作風の部に分れて行われ、風の揚げ方、安定度、鳴りなどの審査が行われました。

この日は風に恵まれて、西の内31枚以上の武者大風や創作風が空高く舞い上がり、大きな歓声が沸いていました。

結果は次の通り。(敬称略・最優秀賞のみ)

■子供の部: 末吉天斗 ■Aクラス: 松木呂伯 ■Bクラス: 今清一
■Cクラス: 小山内忠(県風の会連合会長賞)
■団体の部: 三千石風の会 ■創作の部: 工藤カノ子



大空高く舞い上がる風を操る参加者

41年間の交通安全活動で 緑十字銀賞を受賞

長年の間、地域住民のために交通安全活動を続けてきた小笠原勝栄さん（74歳・木造林）が交通安全功労者として緑十字銀賞を受賞しました。

小笠原さんは昭和43年6月から約41年間にわたり交通指導隊として自宅付近の瑞穂小学校（当時は林小学校）の通学路に立ち、児童の通学指導や交通安全教室などを開催して献身的な取り組みを行ってきました。小笠原さんが励みになっていることは、子どもたちから「指導隊のおじちゃん、おはよう」と笑顔で声を掛けてもらうことだそうで、「元気なうちは続けようと思っていますが、若い後継者も育ってほしい」と話していました。



長年の活動がたたえられ表彰状を持つ小笠原さん



県選手権大会に向け張り切るつがるJVCの児童ら

結成2年目、県選手権大会の切符を手に！

市バレーボール協会（中野智会長）小学生教室のつがるジュニア・バレーボールクラブが結成から2年余りで県選手権大会出場を決め、選手らは喜びに沸いています。

同協会は2007（平成19）年12月、競技人口の底辺拡大と児童の体力・技術向上を目的に参加児童を募り教室を開催。クラブ員は木造、森田、柏地区と五所川原市からの3～6年生の女子児童22人。週4回市内の体育館で練習に汗を流しています。

5年生中心のチームで臨んだ1月末の県選手権地区予選では、予選リーグ、決勝トーナメントを順調に勝ち上がって準優勝を飾り、4月24日に弘前市で開催される県選手権大会に出場します。

歓喜の「春」 合格おめでとう！

木造高等学校（大川満校長）の前期入学試験合格発表が3月11日に行われ、同校を受検した大勢の生徒が受験番号の確認に詰め掛けていました。

午前9時の発表前から受験生や保護者らが集まり、自分の番号を見つけては「あった、あった」と手をたたいて喜び、携帯電話のカメラで記念撮影をしたり友人と抱き合っ

て喜びを分かち合う光景があちこちで見受けられました。合格した生徒は「発表まで緊張して眠れませんでした。入学したら友人をたくさん作って、部活や勉強を頑張りたいです」と高校生活に夢を膨らませていました。



「あった！」と受験番号を指さし合格を喜ぶ生徒たち



手拍子で演奏に参加する児童たち

一流の演奏に感動

穂波小学校（大崎啓子校長）は3月5日、児童に一流の演奏を聴いて音楽の魅力に触れてもらおうと「音楽鑑賞会 マリンバ・ピアノコンサート」を体育館で開催しました。

演奏会にはマリンバ奏者に対馬文子さん（弘前市）、ピアノ伴奏者に大谷和香さん（板柳町）を招き、保護者や地域住民らも鑑賞に訪れていました。児童は聞き覚えのある童謡や春にちなんだ曲が演奏されると、口ずさんだり手拍子をし